

## 会議等速報

令和5年10月13日

件名	令和5年度第1回鹿児島市グリーン・ツーリズム推進協議会	作成課	観光交流局観光交流部 世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課
日時	令和5年9月27日（水）10時00分～11時40分		
場所	マークメイザン（2階ユーティリティスタジオC）		
出席者	協議会委員9名（欠席5名） （学識経験者、旅行業関係者、グリーン・ツーリズム実践者、関係機関、公募委員など）		
市出席者	事務局：観光交流部長、世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課長、他関係職員		
会次第	1 開会 2 議事 (1) 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画の全体像 (2) 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画に基づく事業・取組について (3) 農家民泊受入体制の再編について 3 その他 4 閉会		
主な意見等	<b>2 議事</b> <b>(1) 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画の全体像</b> <b>(2) 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画に基づく事業・取組について</b> ・グリーン・ツーリズム活動を行う団体間において、それぞれの団体が行う取組を共有する仕組みがあれば、グリーン・ツーリズムの更なる推進につながるのでは。そのようなスキームはあるのか。 ⇒本市で作成するグリーン・ツーリズムガイドブックやホームページで活動団体の取組を紹介し情報共有を図っている。今後は活動団体に対して、更なる情報共有・連携を推進する機会を提供できればと考えている。  ・農家民宿の稼働率が低い。観光客数が回復傾向にあるので、民宿の情報をもっと伝えることが大事。各施設の情報はインバウンドも関心が高い部分なので、稼働率も上がるのでは。 ⇒情報発信については、各民宿事業者に委ねる面が大きいですが、市として農家民宿を推進しているので、様々な情報発信の形を検討しなければならないと考えている。  ・農家民宿について、ホームページを見ても場所や部屋、風呂等の情報が掲載されていないケースが目立つ。市のグリーン・ツーリズムのホームページと民宿のページをリンクさせても良い。また、予約サイトのように空き状況がカレンダー表記で確認できたら良いと思う。 ⇒予約サイトなどは旅行事業者との連携も必要と考えるが、紹介するには一定のレベルが必要と聞いている。事業活動に係る情報発信について、市がどこまで介入するかという点も検討が必要である。ICT導入費用はグリーン・ツーリズム推進補助金（補助率1/2）の対象となるので、積極的に周知してまいり		

たい。

### (3) 農家民宿受入体制の再編について

- ・（各地域の民泊の会等を一元化することについて）一元化に対して異論はないが、一元化する組織に受入家庭を増やすスキームはあるのか。  
⇒設立したばかりで横の繋がりはこれからと思うが、桜島地域で民泊に興味のある方を探し勧誘を行っているという話を聞いた。
- ・一元化する組織は民宿事業者を中心に設立された団体のようなのだが、民泊と（業である）民宿のスキームの違いについて整理が出来るのか。民宿が優先されるのではないかと。  
⇒民泊については、受入の決定に行政の関与が必要であり、受入スキームの全てを当該組織に一任するのではなく、行政と連携して推進していく。
- ・受入組織の一元化にあたっては行政の伴走が重要。しっかりとした民泊の再編・育成のスキームを構築しなければ、積み上げてきたノウハウが継承されなくなる。修学旅行は、迅速な誘致活動が重要であるので、早めにしっかりとした組織体制の構築に取り組んでいただきたい。
- ・農家が減っている中、農業に特化せず鹿児島県の文化（伝統文化・工芸等）をホームステイで楽しむという感覚なら、若い方など民泊家庭も広がるのでは。
- ・民泊・民宿は、それぞれ目的、思い、スキームが異なると思うので、整理・分析してほしい。宿泊には抵抗はあるが、収穫体験には来て欲しいという方も多いと思う。  
⇒グリーン・ツーリズムの推進は民泊や農家などを繋ぐネットワークづくりが重要。行政がプラットホームになり、移住者と農家を繋ぐ取組みも一つの手法と考えている。例えば農家で農業体験を行い、移住者宅で食事の提供・宿泊を行うなど、それぞれの役割を分担する取組みも重要となってくる。
- ・鹿児島県は観光客も多く、グリーン・ツーリズムのイメージが定着すれば交流も増えると思う。受入家庭を増やすには、農家でありながら観光を理解している人材の育成・発掘が重要であると考えている。